

11. 何が起きるかわからない大雨災害に備える

2022年の夏は東北北部で豪雨災害、台風8号による大規模な風水害が連続して発生し、新聞やテレビは、これまで経験したことのない未曾有の降雨量といった最大級の表現を用いて報道しました。まさに記録破りのものだったわけですが、我々が経験して記録されている豪雨は人間誕生からすれば、ごく最近の記録しかないわけで、人類史上最大だったのかどうかはわかりません。そして、自然災害は科学的知見や経験をもってしても、いつ・どのように起きるかについては全く予想できません。したがって、これからも記録破りは続くことになるかもしれません。

自然災害は、まさに自然現象によるものですので、いつ起きるのか、起きたらどのようなことが発現するのか皆目わからないのです。そのなかで被害を少なくするには、実現できること、不可能なこと、最悪への備えといった解決能力や応用力が求められています。自然災害は、これまでもさまざまにくりかえされていますが、毎回のように犠牲者や物の損壊が起こり、多くの社会的損失が発生し、防災や減災に対して解決すべきことや、その時の判断力などが求められています。そのためにも、私たちは、生活している環境のリスクを知っておくことが重要で、ハザードマップなどで確認しておくことは大切なことです。加えて、情報社会の中で、正しい情報を選別して、適切に判断するという能力も求められています。つまり情報判断能力とそれに基づく行動力が必要となっています。

また、豪雨災害時に地域の人が異口同音に言われることは、時々刻々に状況が変化することと、雨が止んでからも川の状況が大きく変化することがあって、危険な局面がしばらく続くという恐怖です。つまり、豪雨の影響はそこで収まるだけではなく、背後の状況に大きくかかわっているために、川の水位が表面的な現象だけではないということです。

そして、豪雨は土砂災害にも大きく影響します。特に、大雨が降ってからもしばらくはその影響が潜在化しますので、次の豪雨などで大量の雨が加算されることで土石流やがけ崩れといった土砂の動きが顕在化してきます。したがって、ハザードマップなどでリスクがあるとされている地域では十分に注意して、最悪の事態を想定して家の中でも安全なところへの移動をすることが必要となります。

災害時は、どのような状況が出現するのかは想定不能ですので、最悪の場合を想定して、過去に被害にあっていないということだけで自分は大丈夫だと安閑としてはいけないということになります。規模も頻度も、益々増加する傾向にあることを頭に入れておいて、他地域の災害を対岸の火事と思わないで、事例としてしっかりと参考にすることが大事です。